

奈良県の紹介

都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画)

都道府県内の紹介フォーム

都道府県内の情報

都道府県名：奈良県

• 総人口	1,306,707人
• 高齢化率 (65歳以上が総人口に占める割合)	32.2%
• がん患者死亡者数	4145人
• がん患者の自宅死亡割合	23.8%
• がん診療連携拠点病院数 (厚生労働省指定)	5施設
• 緩和ケア病棟のある病院数	3施設
• 在宅療養支援診療所数	142施設

• 都道府県の特徴 (自由にご記載ください)

奈良県は近畿地方に位置する内陸県で、南北に長い形状をしている。北西部に県全体の7割近くの人口が集中しており、県南部2/3は山岳地帯の過疎地域となっている。全国より早いスピードで高齢化が進んでいる(令和7年高齢化率：32.6% (全国平均30.0%))

都道府県がん対策推進計画に記載された 緩和ケアに関する主な目標や取り組み

■最終目標

がん患者やその家族が、痛みやつらさが軽減され、療養生活に満足している

■中間目標

がん患者やその家族ががんと診断された時から緩和ケアを受けることのできる体制整備が進んでいる

<個別施策>

・緩和ケア提供体制の充実

- 緩和ケア研修会(PEACE、ELNEC-J)の実施
- 緩和ケアチーム研修会の開催
- がん性疼痛管理を中心とした緩和ケアに関する研修会(病診連携)開催

・緩和ケアの理解促進と情報の充実

- 県民公開講座の実施

都道府県内の緩和ケアに関する重要な 課題・問題①

中間目標

「がん患者やその家族ががんと診断された時から緩和ケアを受けられることのできる体制整備が進んでいる」に対して、患者意識調査で「診断時からの緩和ケアの認識が低い」という結果が出た。

- 全ての患者を専門的緩和ケアチームで対応することは困難
- 治療チームが基本的緩和ケアが実践できる体制の構築が望ましい。
- 「緩和ケア」=終末期 のイメージを払拭させるためにはどうすればよいか？

都道府県内の緩和ケアに関する重要な 課題・問題②

緩和ケアチームの実態が把握できていない

- ・施設を越えた緩和ケアチームの顔の見える関係性が希薄
 - コロナ禍の影響
 - 緩和ケア医の勤務関連の病院との繋がりはある
- ・県内の緩和ケアチームの所在、活動内容が把握できていない
- ・奈良県緩和ケアチーム研修会を開催するが参加施設が少ない
 - 緩和ケアチームの輪を拡げられない

県内のがん関連専門・認定看護師の施設内での活動部署や活動内容が把握できていない

都道府県内の緩和ケアを進めるための これまでの取り組み

2021年度

- ・緩和ケア研修会(PEACE) 10回/年(7施設で) 計171名受講
- ・ELNEC-J開催 1回/年 15名受講
- ・がん性疼痛管理を中心とした緩和ケアに関する研修会(病診連携)の開催 5回/年(各施設1回/年) 計201名受講
- ・緩和ケアチーム研修会開催 1回/年 17名受講
「奈良県の緩和ケアチームが目指すビジョンについて考える」
- ・在宅緩和ケアカンファレンス(月1回)WEB
- ・在宅緩和ケア地域連携研修会 WEB 年1回 90名参加
「患者と医療者がともに行う疼痛コントロール」
- ・緩和ケア普及県民公開講座 年1回
「がん口コモ予防～がんになっても動ける身体でいるために～」

2022年度

- ・緩和ケアチーム研修会
「緩和ケアチームの介入目標と主診療科のニーズが異なるとき」

都道府県内の緩和ケアを進めるために 今後取り組みたいこと・検討したいこと

- ・県内の緩和ケアチームとの顔の見える関係性の構築
 - ・緩和ケアチーム研修会のテーマの選定、参加者を募る方法
 - ・県内の緩和ケアの実態の把握の方法
-
- ・がん関連の看護師間での顔の見える関係の構築と活動内容の把握(奈良県CNS/CN協議会、各CNでの集まりはあるが、横のつながりなし)

奈良県 実施計画の概要立案

2022年度 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画)

2022年度 都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画) フォローアップ研修

都道府県内の緩和ケアの現状

都道府県内の緩和ケアに関する課題・問題

- 都道府県・地域がん診療連携拠点病院には、緩和ケアの提供体制の要件が指定されているが、施設により医療従事者の人員配置状況や提供できる緩和医療の内容等が異なるため、各施設で試行錯誤しながら緩和ケアチームの運営を行っている。
- 限られた人員や医療提供体制等の中で緩和ケアチームを運営するにあたり、各施設はそれぞれ課題や困り事を抱えているだろうが、それをお互いに共有し、検討することは十分にできていない現状がある。
- そこで、県内のがん診療連携拠点病院の緩和ケアチームの強み・弱みを把握し、それぞれの強み・弱みを活かし補完しあえる診療連携体制が整備できれば、奈良県の緩和ケアの質の向上、ひいては、患者によりよい医療とケアの提供につながるのではないかと考えた。

都道府県内の緩和ケアの質向上に向けた 今後の方向性

都道府県単位の取り組みで目指したいこと(ゴール)

県内のがん診療連携拠点病院の緩和ケアチームの強み・弱みを把握し、県民である患者・家族によりよい医療とケアが提供できるよう、がん診療拠点病院間における診療連携体制が整備できる。

都道府県単位の取り組みで扱いたい内容と方法

奈良県拠点病院の緩和ケアチームの強み・弱みを把握し、診療連携体制を整えるために、研修会を企画・開催する。

① 拠点病院に事前にアンケート調査(課題の抽出)

<内容>

- ・がん診療拠点病院の指定要件における緩和ケアの提供体制に対する自施設の課題
- ・各拠点病院の施設内、または2次医療圏内においての緩和ケアチームの運営や活動において困った事例
(例:リソースの活用や他施設との連携についてなど)

都道府県内の緩和ケアの質向上に向けた 今後の方向性

都道府県単位の取り組みで扱いたい内容と方法

② 各拠点病院の緩和ケアチーム活動の現況報告会

<内容>

- ・各施設の診療状況（緩和ケア外来の開設の有無、外来診療日、がん看護外来の有無、チームの活動方法）
- ・各2次医療圏の特徴、医療圏内の病院との連携方法、医療圏内の他施設緩和ケアチームに関する把握状況
- ・各病院の強み・弱み、チームメンバー（職種）、得意とする領域
〔 小児AYA、循環器疾患、神経難病、慢性疾患、精神疾患、疼痛に対する治療（放射線治療、IVR、神経ブロック）、など 〕

③ 事例検討

- ①の事前調査から「緩和ケアチームの運営での困った事例」に対する対策を検討する（施設を越えたりリソースを活用して）。

都道府県内の緩和ケアの質向上に向けた 今後の方向性

都道府県単位の取り組みで扱いたい内容と方法

- ④ 奈良県のがん診療連携拠点病院それぞれが抱える課題を踏まえて、がん診療連携拠点病院間でどのように診療連携体制を整備していくのかを検討する。

企画概要

企画名

奈良県緩和ケアチーム研修会

目的

患者によりよい医療・ケアが提供できるように、県内のがん診療連携拠点病院の緩和ケアチームの強み・弱みを把握し、診療連携体制が整備できる。

目標

奈良県がん診療連携拠点病院間での診療連携体制が整備できる

対象者・人数

対象者：奈良県内がん診療連携拠点病院緩和ケアチームメンバー 各職種1名ずつ

人数：30～40人程度

近大奈良病院、天理よろづ相談所病院、奈良県総合医療センター、
市立奈良病院、奈良県立医科大学附属病院

開催期間・時間・開催形式

半日間 13:00～17:00 オンライン形式

実施主体

奈良県立医科大学附属病院

プログラム

開始	終了	時間	研修方法	内容
13:00	13:15	15分	全体	開会の挨拶 イントロダクション(研修会の目的)
13:15	14:15	60分	全体	1施設 発表8分+質疑応答3分×5施設 各施設強み弱み、得意領域など
14:15	14:25	10分	休憩	
14:25	15:05	40分	グループワーク (即席緩和ケアチーム)	事例検討 「緩和ケアチーム運営における困った事例」
15:05	15:25	20分	全体共有	3分発表×5チーム
15:25	15:35	10分	休憩	
15:35	16:25	50分	グループワーク (施設毎)	自施設の課題を踏まえて、奈良県のがん診療連携拠点病院として診療連携体制をどのように整備していくか検討する。
16:25	16:50	25分	全体共有	3分発表×2分質疑応答×5施設
16:50	17:00	10分	全体	まとめ 閉会の挨拶(センター長)

研修の評価

【実施評価】

研修会終了後、アンケート調査で、テーマの選定や研修会の内容の評価を実施する。

【結果評価】

今回の研修会の目標が各セッションにて達成できたかを事前・事後アンケートで評価する。

【企画評価】 研修後アンケート調査をまとめる。

- ・研修会の内容の評価(各セッション毎)
 - ・研修会の目標が達成できたか
 - ・研修会で各施設が発表した課題・改善点についてまとめる(成果物で評価)
-